

卒業おめでとう!

～先生方からメッセージ～

高PTA会報

編集発行
愛媛県立八幡浜高等学校
PTA広報委員会



祝 卒業
教頭 清家 純三

が頭をよぎります。高校卒業はひとつの節目であり、進学・就職も選択肢のひとつにすぎません。これからは自分の実力(学力、体力、...)が全てです。八高で培った力を信じて、自分の夢を叶えるために新たなスタートを切ってください。
On your marks! Get set! Go!

卒業おめでとうござい
ます。日々の学習活動や
部活動等での活躍の様
子、また、修学旅行にお
ける北海道班での思い出



3-1



3-2



卒業おめでとう

三学年主任 井上 務

学年主任として三年間、学習や部活動に打ち込んでいた様子を見せられました。君達の多くの人がお互いの得意な分野で努力している友達を尊敬しながら、自身の励みにして頑張っていたのではないのでしょうか。それぞれの進路に向けて、「張り合う」のではなく「共に高め合う」、いい意味での競争が出来た人は、高校生活が一生の財産になった事と思います。卒業おめでとう。



3-4



3-3



卒業おめでとうございます。

事務 浅田 富保

期待と不安を抱いて迎えた入学式から三年。多くの友達や先生、先輩たちと出会い、様々な経験をしながら成長し卒業を迎えられたことと思います。コロナ禍で学校生活にも影響がありました。当たり前のように過ごしてきた日々が、実はかけがえのないものだったと気づいた人も多いのではないのでしょうか。世の中には、いろいろな人で支えられています。感謝の気持ちを大切に、心豊かな大人になってください。幸多かれと祈っています。



3-5



長男から始まり、今年で五年目となる陸上部の保護者生活も、次男の卒業と共に終わりを迎えようとしている。この間、様々なドラマがあり、成長があり、感動があった。最初のドラマは、陸上に無関心かと思っていた長男の「俺、陸上部に入るけん」で始まった。ちよつと反抗期で、どんなに家で悪態をついても、送迎の際には「有難うございました」の挨拶を欠かさなくなつた。記録的には、残念ながらインターハイには

夢の続き

陸上競技部 保護者 本田 利枝



出場できなかったが、県総体後も部活動を引退せず、インターハイを目指す仲間の練習パートナーを買って出た姿には、確かな成長を感じた。走ることが好きだった次男は、高校進学の際、「八幡浜高校で倉田先生の指導を受けたい」と入部したが、強い思いとは裏腹に、一年次は順調に伸びたものの、二年次は貧血に悩まされどんだ底の苦悩を味わった。三年次には春先の故障もあり、記録は伸びたものの全国大会出場は叶わなかった。

「努力には夢がある」子ども達を成長へと導いて下さった先生方、共に汗を流した仲間達に心から感謝したい。子どもの成長する姿を見られることは、親としてこの上ない喜びである。卒業後も陸上を続ける次男。大学でも夢の続きをきつと見せてくれるだろう。八高陸上部で培った基礎を信じて、自信を持って送り出した。

感謝の心

男子卓球部 保護者 酒井 紀子

二〇二〇年 夏。新型コロナウイルスの流行で多くの高校三年生が総体や目標としていた大会が中止となり、引退を余儀なくされた。息子たちの最後の公式戦を振り返ると、二〇一九年十月。県大会を逃し、次の夏の総体に最後の力を発揮するべく、文武両道で頑張っていた。練習場の体育館がなくなり、十分な練習が難しくなり、キャプテンになつてからは何度もみんなと練習方法などを話し合い、意見を出し合つてチームワークを高めていたのを思い出します。

中学入学から卓球を始め、六年、腕の力がなく筋トレなども頑張っていました。好きなことに熱中できる姿を間近で見ている、総体中止はどんなに辛かつただろうと思いましたが、この経験からこの人生でのプラスになるように頑張ってもらいたいです。今まで一緒に戦つてくれたチームメイト、朝早くから送迎など



をしていただいた顧問の先生、大会などでお世話になつた保護者の皆さん、息子についてきてくれた後輩たち、みんなが自分と関わる全ての人に感謝をもつて次のステージに進んでいくように応援し続けています。三年間ありがとうございました。

バトンタッチ

男バスケット部 保護者 井上ゆきみ

たった一人の先輩から、多くのことを学び、受け継ぎ、先輩への感謝を胸に、練習に励んできました。目指すは「県総体、初戦突破」

しかし、そんな矢先にコロナ禍で事態が一変。部活動の集大成でもある県総体も、やむなく中止となりました。ずっとバスケットが好きでこの総体に懸けていた息子、そして、今まで部活と学業を両立させて頑張ってきた誰にとつてもこれは悔しい現実だつたと思えます。思い切りバスケットをすることが、叶わなかったもどかしさの中で、引退し、結果的には得られた成果より、成長遂げられなかった事の方が多かつたかも知れません。しかし、二年余りの部活動の中で、信頼できる仲間と出逢い、大変なこの時期を共に過ごしたことは、息子にとつてかけがえない財産となりました。みんなに、心からありがとうございました。

挑戦

ラグビー部 保護者 井上 智文

まさか自分の息子がラグビーをするとは：先輩が引退して先生とマンツーマンでの練習という時期もありました。生の部員も増え、合同チームとして様々な大会にも参加することができました。コロナの影響で総



また、顧問の先生方には、意欲的に練習欲を組んで頂き、有意義な経験をすることが出来ました。忙しい中、快く配車を買つて出てくださいました。保護者の皆様、本当にお世話になりました。この場を借りて、御礼申し上げます。

最後に、「新生」男子バスケットボール部の皆さん、「県総体、初戦突破！」頼みます。



体はなくなりましてが、代替大会でブロック一位という結果まで見せてもらえました。果まで見せてもらえました。体と体の激しいぶつかり合いにやっていたけりのかと心配もしました。息子やチームメイトのたくましい姿を見てラグビーのすばらしさを感じる事ができました。

子どもたちに手厚いご指導と最後までモチベーションを持たせ続けていただいた、顧問の新井先生、OBをはじめ今まで関わっていただいた全ての方々へ感謝申し上げます。

部活動と仲間へ感謝

男子ソフトテニス部
保護者 宮本 里奈

八高でのソフトテニスはフィジカル・メンタル両方鍛えぬくものでした。毎日の練習に加え、対外的な試合・遠征など充実した日々、子ども達も達



は先生の鋭い眼差しの中、切磋琢磨し成長していききました。ここぞという場面で結果を出す難しさ、諦めず粘り強く戦う大切さなど学んだことは、彼らの糧となり人生に活かされてくるでしょう。

総体は中止となりましたが、心に残る校内戦を設けて頂き、三年生は気持ちに区切りをつけることができました。限られた環境の中でも試合や遠征を組み、熱心にご指導くださった河野先生、早朝から準備し送迎をしてくださったり、共に応援したりして下さった保護者の方々、そして一緒に過ごした部員のみんな、感謝の思いでいっぱいでした。男子ソフトテニス部の益々のご活躍を応援しています。

区切りの先へ

水泳部
保護者 谷山 真理

「俺の引退は、いつになるんやろう。それとも、もう引退しとるんかな。」県総体が中止という報道が流れてきたときに、ぼそっとつぶやく声が聞こえてきました。コロナ感染拡大防止のために社会全体が閉じていった後も、できる限りの練習を続けてきたのは、自己の向上のためだけでなく、昨年度、先輩たちと一緒に「男子・女子共に総合優勝」を成し遂げ、連覇を！と託されたバトンを後輩た



ちに繋ぐため。インターハイの中止が決定した後も「県総体だけは」の思いで練習に取組んでいた。だけに、気持ちの置き場が見つけられない感じが、半年が過ぎ、今では何事もなかったかのよう日々を過ごしています。七月には、最後のレースを泳ぐこともでき、彼の部活動にも一区切りがきました。今はまだ「なんとなく終わってしまったの。」とか「一生懸命やったのに。」という気持ちの方が強いかもしれません。でも、もともと大人になり、気持ちの区切りを本当につけられたときに、競泳をやったよかったです。と心から思えたらいいな、と思います。そのときに、彼らがよりよい区切りをつけるために考え、動いてくださった人たちがたくさんおられたことにも気付いたら、とても素敵だなと思います。最後にになりましたが、今まで励まし、御指導いただいた先生方やコーチの方々、保護者の皆様へ感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

勇往邁進

女子バレーボール部
保護者 兵頭 啓子

「八高でバレーがしたい！」先輩方の試合を見に行く度にこの思いを膨らませ、バレーボールを愛してやまない八人が集結しました。

みんなが愛媛県一位を取る目標を胸に二年間いつも全力でした。「絶対勝ち抜く！」最後の総体に懸けた思いは、泣いても、泣いても、ぶつけない感情が溢れました。そんな中、顧問の先生が企画して下さった引退試合。何かから解放された八人の笑顔と、前を向こうとする姿が強く印象に残っています。

「応援されるバレー部になれ！」律することの大切さ、目標に向かって全力で突き進む粘り強さ。八高バレー部の多くの学びは、これからの彼女たちの人生において必ず力になると信じています。どんな時も負けず、勇ましく、迷わず行こう。

先生方はじめ、後輩のみなさん、応援して下さったみなさん、八人を見守り支えてくださった事に、本当に感謝しております。ありがとうございます。



「感動をありがとう」

ダンス・バトン部
保護者 野本 沙希

部活を辞めたいと言っていた娘が部長に選ばれ、「期待に応えたいから、私頑張る！」と聞いた時は大変驚きました。娘はダンス経験も浅く、皆を引っ張っていくリーダータイプでもありません。どうやら先輩方からメンバリの調整役として選ばれたようでした。繊細なので大丈夫だろうかとても心配でした。

悩みながらも努力を重ね、てやてやウエーブでは優勝。弾ける笑顔に、私も元気をもらいました。ダンス部では、曲作り、ダンス、衣装と全て自分達で行っています。「無からイメージし、形づくり、表現する」という経験は社会でも役立つことだと思います。最後の総体はコロナ禍で無くなりましたが、発表会を開催して頂きました。踊れる喜びに溢れた素晴らしいステージでした。最後まで悔いの残ることなくやりきれたのも、先生および保護者の支えがあった事です。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

